

平成30年度 第70回 日本連合教育会研究大会 桐生大会

大会主題、分科会研究協議題 等

I 大会主題及び大会主題設定の趣旨

II 分科会研究協議題、研究協議題設定の理由、研究協議の視点

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 第1分科会 | 国語 |
| (2) 第2分科会 | 社会 |
| (3) 第3分科会 | 算数、数学 |
| (4) 第4分科会 | 理科 |
| (5) 第5分科会 | 生活、総合的な学習の時間 |
| (6) 第6分科会 | 音楽 |
| (7) 第7分科会 | 図画工作、美術 |
| (8) 第8分科会 | 家庭、技術・家庭 |
| (9) 第9分科会 | 体育、保健体育 |
| (10) 第10分科会 | 外国語活動、外国語 |
| (11) 第11分科会 | 道徳 |
| (12) 第12分科会 | 特別活動 |
| (13) 第13分科会 | 特別支援教育 |
| (14) 第14分科会 | 幼児教育 |
| (15) 第15分科会 | 健康教育 |
| (16) 第16分科会 | 学校事務 |

I 大会主題及び大会主題設定の趣旨

1 大会主題

人や社会との関わりの中で思考・判断・表現する力を高め、
心豊かに、創造的に生きる子供の育成

2 大会主題設定の趣旨

日本連合教育会では、昭和24年の発足以来、真摯な実践を積み重ねて、我が国の教育の充実・発展に寄与してきた。とりわけ、これまでの研究大会において一貫して重要視していることは、幼少期から道徳心や情操等を育む「豊かな人間性」と社会や文化の発展のための「創造性」を備えた子供の育成に焦点を当てていることである。

今日の我が国の社会では、情報化や科学技術の進展等により生活の利便性が飛躍的に向上してきている。また、近年日本を観光で訪れる外国人が急増し、世界遺産や文化遺産、また伝統文化や食文化を通して、外国人との文化交流も深まってきている。一方、少子高齢化による人口減少、地球規模での環境問題、新興国の経済発展による国内産業の空洞化や格差社会の拡大等、大きな課題に直面している。また、SNSによる人や社会と直接ふれあう機会の減少等、子供を取りまく環境も大きく変わってきている。

教育環境に目を転じると、道徳心や情操を育てるうえで大きな役割を担うべき家庭や地域社会の教育力の低下、いじめや不登校の問題、SNSなどへの過度の依存など、教育を取り巻く環境は厳しいものがある。また、PISA型学力調査や全国学力学習状況調査において、日本の子供の多くに、活用力や応用力が不足していることが指摘されている。

日本の子供が、大人になったとき、世界の一員として活躍するためには、多様な価値観があることを理解し、相手の立場を尊重し、協力しながら、世界と対等に競争していける能力が必要である。そのためには、新しいものを自分から創り出す力（創造的に生きる力）を身に付けさせていく必要がある。中教審答申でも、学校教育を通じて育てたい子供たちの姿として、「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること」と挙げている。

これらの諸課題を解決し、心豊かに、創造的に生きる子供を育成をしていくために、これまで取り組んできた問題解決的な学習やグループ学習などの取組を更に充実・発展させ、子供たちが主体的・協働的に学習が進められるよう工夫していきたい。また、人や社会との関わりを密にする場やじっくり考えたり表現したりする場を意図的に設け、自ら感じ、思考し、判断し、表現する力の育成につなげたいと考える。

このような考えのもと、桐生大会では、「人や社会との関わりの中で思考・判断・表現する力を高め、心豊かに、創造的に生きる子供の育成」を大会主題に掲げ、各教育会が持ち寄った様々な実践結果や課題、展望等について研究協議を深め、主題に迫りたい。

Ⅱ 分科会研究協議題・研究協議題設定の理由・研究協議の視点

第1分科会 (国語)

1 研究協議題

言語能力を育む国語科学習指導

2 研究協議題設定の理由

激しく変化する社会の中で、たくましく生きていく力を育成するためには、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を一人一人の児童生徒が確実に身に付けることのできる質の高い学習指導を行う必要がある。

学校における学習指導を支えるのが言語であり、言語能力の育成・向上は、すべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる重要性をもつと考えられる。

そこで、本分科会では、児童生徒に言語能力を育むことを目指して、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領に共通して明示され、今後も重点事項になると考えられる「伝え合う力」と、全教科を通じて育成を目指す資質・能力の三本柱の一つである「学びに向かう力」の基盤とも言うべき「学習意欲」に視点を当てて協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 言葉を通じて伝え合う力を育む指導の在り方
- (2) 児童生徒の学習意欲を引き出す指導の在り方

第2分科会 (社会)

1 研究協議題

主体的に課題を探究する力を育てる社会科学習

2 研究協議題設定の理由

これからの日本の教育には、今後ますますグローバル化の進む国際社会を主体的に生きる資質や能力、持続可能な社会を創るために力を発揮して活躍できる能力や態度を育成していくことが求められている。そのためには、児童生徒の考え方や視点を大切に、社会との関わりを意識したものの方や考え方を重視するような授業を展開する必要がある。また、他者と協働しながら課題を解決する学習を取り入れることで、学びを広げ深めることができ、さらに自ら社会に参画しようとする態度が育つと考える。

そこで、本分科会では、主体的に課題を探究する力を育てる社会科学習の工夫について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 他者と協働しながら問題を解決していく社会科学習の工夫
- (2) 学んだことを生かし、自ら社会に参画しようとする態度を育てる社会科学習の工夫

第3分科会（算数、数学）

1 研究協議題

学び合う活動を通して、数学的な思考力・表現力を高める算数・数学科学習

2 研究協議題設定の理由

情報化やグローバル化など急速な社会の変化の中で「生きる力」を育むために、「生きて働く知識・技能の習得」や「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」など、子供たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に身に付ける教育が求められている。算数・数学科においては、これまで以上に自分なりに試行錯誤し、自分の考えを、根拠を明らかにして説明したり、他者の多様な考えを理解して自分の考えを深めたりするなど、新たな課題を主体的・協働的に解決する算数的・数学的な活動の充実を図る必要がある。

そこで、本分科会では、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、それらを、児童生徒が主体的・協働的に学び合う活動を通して身に付け、高めていく学習指導の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 算数・数学科の授業における身に付けさせたい資質・能力
- (2) 身に付けさせたい資質・能力を高めるための学び合い活動の工夫

第4分科会（理科）

1 研究協議題

自然や人との関わりの中で主体的・協働的に学び、思考力・表現力を高める理科学習

2 研究協議題設定の理由

我が国では、科学技術の発達に伴い生活の利便性が飛躍的に向上し続けている。しかし、生活の発達とともに環境問題やエネルギー問題等の課題は深刻さを増し、解決に向けては長期に取り組まねばならない。これからの時代を生き抜く子供たちには、科学の恩恵を享受しながらも、自ら考えて環境に配慮した生活を創造・実践していくことが求められている。

理科学習では、身近な自然事象や日常生活の中の科学的な現象と直接関わり、自ら見いだした疑問を主体的・協働的に探究する中で、考え、表現する力を身に付けていくことが重要である。この探究活動で身に付けた科学的な見方や考え方によって改めて自然を理解することにより、自他の生命を尊重する態度、自然事象を積極的に解明していこうとする意欲、自然を愛する心情を育むことができると考えられる。

そこで、本分科会では、身のまわりの自然事象や地域人材を活用した主体的・協働的な学びをもとに、思考力・表現力を高めるための理科学習の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 自然事象への課題意識をもとにした主体的・協働的な学びと思考力・表現力の育成（小学校）
- (2) 地域人材や専門家を活かした主体的・協働的な学びと思考力・表現力の育成（中学校）

第5分科会（生活、総合的な学習の時間）

1 研究協議題

地域に学び、地域を好きになり、地域の発展に関わる児童生徒の育成

2 研究協議題設定の理由

総合的な学習の時間は、「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」ことを目標としている。

学習指導要領「総合的な学習の時間」の内容として例示された「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」を取り上げることは、児童生徒に自分たちが暮らす地域のよさや特色、課題に目を向けさせるとともに、よりよい郷土の創造に関わることや自己の生き方を考えさせるうえで有効である。

このように小・中学校を通じて、総合的な学習の時間において地域を基盤にした様々な学習活動を展開していくことは、他教科・領域の学習活動の充実と汎用的な能力の育成に資するものとする。さらに、地域について深く学び、愛着を深めることは、その地域を好きになり、地域の発展に関わる児童生徒の育成につながるものと考えた。

そこで、本分科会では、本研究協議題に迫るための支援の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 児童生徒に、地域に対する興味・関心を高め、調べる意欲を持続させるための支援の在り方
- (2) 児童生徒に、地域のよりよい発展に関わらせるための支援の在り方

第6分科会（音楽）

1 研究協議題

思いや意図をもって表現したり聴いたりする児童生徒の育成

2 研究協議題設定の理由

音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することを重視している。「思いや意図をもつ」とは、「このようなイメージや思いをこのように表現したい」といった自分の考えをもつことである。そして、この思いや意図を実現するためには、習得した知識や技能を活用しながら、考え判断して、表現を工夫したり、自分の感じ方を大切にしながらも根拠をもって聴いたりするなど、児童生徒一人一人が主体的、創造的に学習活動する場面を設定することが大切になってくる。

そこで、本分科会は、学び合いのある学習活動の場を意図的に設けるとともに、表現及び鑑賞のすべての活動において共通に指導する内容である【共通事項】を支えとして思考・判断し、表現や鑑賞の能力を高める指導の工夫に視点をあて協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 【共通事項】を支えとして思考・判断し、表現や鑑賞の能力を高める指導の工夫
- (2) とともに学び、高め合う学習活動の充実

第7分科会（図画工作、美術）

1 研究協議題

材料や友達との豊かな関わりの中で、創り出す喜びを味わう図画工作・美術科教育

2 研究協議題設定の理由

現在のグローバル化社会の中で、子供たちには豊かな感性や情操等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。

文部科学省が行った図画工作・美術の学力に関わる調査では、「分析結果から見た指導の改善」として、「自分なりの感じ方や考え方を発展できるよう、話し合い活動や〔共通事項〕を意識した指導を取り入れることが大切である。」「材料や用具を見たり触ったり試したりしながら、それらの特徴を生かした表し方を考え出すような指導過程を工夫することが大切である。」などが挙げられている。

そこで、本分科会では、「関わり」に視点を当て、子供たちが創り出す喜び（創造活動の喜び）を味わうための具体的な方策について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 材料や用具、他者との関わりを工夫した「材料体験」の在り方
- (2) 友達との関わりを工夫した「学び合い」の在り方

第8分科会（家庭、技術・家庭）

1 研究協議題

人や社会との関わりの中で、日常生活をよりよくする能力と実践的な態度を育成する家庭科、技術・家庭科学習

2 研究協議題設定の理由

変化の激しい社会の中で、自立的に生きるのに必要な「生きる力」を身に付けさせるためには、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力をしっかり育てていくことが重要である。

そのためには、学校における学習と家庭や地域社会における実践との結び付きを重視し、よりよい日常生活を送るために課題を解決しようとする能力や児童生徒が主体的・協働的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。

そこで、本分科会では、児童生徒が主体的・協働的に学習に取り組めるようにするための学習活動の工夫、家庭や地域社会との連携の在り方に視点を当てて協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 児童生徒が主体的・協働的に取り組むための学習活動の工夫
- (2) 学んだことを実践につなげるための家庭や地域社会との連携の在り方

第9分科会（体育、保健体育）

1 研究協議題

体力向上に向けた体育科・保健体育科の授業づくりの工夫

2 研究協議題設定の理由

近年、外遊びの減少など、様々な要因から児童生徒の体力の低下が指摘され、積極的にスポーツをする子供とそうでない子供の二極化も懸念されている。それらは、本市においても同様な傾向が見られる。また、小・中学校における共通の課題として「投力」、「持久力」、「柔軟性」の低下が挙げられ、それらを改善していくために、小・中学校が連携し、児童生徒の発達段階に応じて、小学校から中学校へと滑らかに移行できるような指導・協力体制を検討していく必要があると考えた。

そこで、本分科会では、児童生徒の体力向上に向けた小中連携の実践をもとに、小・中学校で共通に実施できる授業づくり（学習規律や授業の進め方、滑らかな移行を意識した教育課程の編成など）の工夫や小・中学校教員の指導・協力体制の在り方などについて協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 小・中学校で共通に実践できる授業づくり（学習規律や授業の進め方、教育課程の編成など）の工夫
- (2) 児童生徒の体力向上に向けた、小・中学校教員の指導・協力体制の在り方

第10分科会（外国語活動、外国語）

1 研究協議題

自分の表現したい内容を、相手意識をもちながら、英語で伝え合うコミュニケーション能力の育成

2 研究協議題設定の理由

これまで以上に加速度的にグローバル化が進む社会を生きる児童生徒にとって、様々な文化や考え方をもちた人々とのコミュニケーションが必要不可欠である。そのためには、自らの考えや思いを根拠とともに伝える力、他者や異文化を理解する力、議論や対話を通じて自分の考えを広げる力、他者と共同しながら課題を解決する力等を身に付けていくことが重要と考えられる。

そこで、本分科会では、文部科学省の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の工夫や外国語活動の教科化に向けた取組、小学校と中学校の連携の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の工夫（中学校）
- (2) 外国語活動の教科化に向けた取組（小学校）

第 1 1 分科会 (道徳)

1 研究協議題

心豊かで、未来を切り拓く力を育む道徳教育

2 研究協議題設定の理由

情報化、グローバル化等、めまぐるしい速さで変化していく現代社会に対応していける創造力を育む教育の実現が求められている。幅広い視野で多様な価値観の存在を認識すること、他者とともにより良く生きていくことは、自立した人間の育成を目指す道徳教育の充実のためにも、喫緊の教育課題である。

豊かな心の基盤となる道徳性を養うためには、児童生徒の発達段階に応じた体系的な道徳教育の学習が重要である。特に要となる道徳科においては、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、これまで以上に深く考えてその自覚を深める「考える道徳」、「議論する道徳」への転換が求められている。今までの自分の考え方や生き方を見つめて、考えを深め、解決しようとする道徳科の学習は、未来を切り拓いていく力を育成することでもある。

そこで、本分科会では、道徳的価値に迫る多様な意見や考えを引き出すための指導方法や、道徳的実践意欲と態度を育てるための指導方法の工夫について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 道徳的価値に迫る多様な意見や考えを引き出すための指導方法の工夫
- (2) 道徳的実践意欲と態度を育てるための指導方法の工夫

第 1 2 分科会 (特別活動)

1 研究協議題

自発的、自治的な活動を通して、よりよい人間関係を築く特別活動

2 研究協議題設定の理由

特別活動は望ましい集団活動を通して、児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育成することをねらいとする。

現代の変化の激しい社会の中にあっては、多様な他者と協働しながら、課題を自分事として捉え、主体的に関わり、社会に積極的に関わっていく力を育成することが、ますます重要なポイントとなっている。

そのためには、所属する様々な集団の課題を見だし、話し合い活動や協議などの自発的、自治的な活動を通して、よりよい人間関係を築くことが大切である。

そこで、本分科会では自発的、自治的な活動を通して、望ましい人間関係とよりよい集団づくりに参画するための活動の工夫について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 充実感や存在感が味わえるような、自発的、自治的な活動の工夫
- (2) 望ましい人間関係づくりや、よりよい集団づくりに主体的に参画するための活動の工夫

第 1 3 分科会 （特別支援教育）

1 研究協議題

一人一人のニーズに応じ、豊かに生きる力を育む特別支援教育

2 研究協議題設定の理由

障害のある子供たちは、障害の種類や程度に応じ、適切な教育を受けることが必要である。近年、特別支援学校や特別支援学級への在籍、通級による指導を受けている児童生徒は増加している。本市においても特別支援学級の在籍者が増加し、全国の傾向と同様の状況にある。特別支援学級の担任のほとんどが本部会に所属し、各校で特別支援学級に在籍、または通級している児童生徒の指導支援に日々当たっている。また、その内の多くが、校内の特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制の中心を担っている。コーディネーターは、子供の状況を的確に把握し、情報を共有し、保護者や関係機関につなぐといった「窓口的役割」「連絡調整役」としての役割を果たすことが重要であると言われている。しかし、十分に役割が機能しているとは言えない現状もある。そのような状況の中、学校現場では、障害の重度・重複化や多様化に対応し、通常の学級の障害のある児童生徒への支援を行い、障害のある子供たちの自立と社会参加を目指し、日々の教育活動を行っているのが現状であろう。

そこで、本分科会では、特別支援教育コーディネーターの在り方や障害のある子供たちの自立と社会参加に向けたキャリア教育の取組について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 一人一人のニーズに応じ、学校全体で取り組むための特別支援教育コーディネーターの在り方
- (2) 将来の社会参加に向けたキャリア教育の在り方

第 1 4 分科会 （幼児教育）

1 研究協議題

豊かな心と創造性を育む幼児教育の充実

2 研究協議題設定の理由

幼児教育は、園・家庭・地域が連携を図りながら、その幼児の生涯にわたる人格形成の基礎を培うことが肝要である。幼児の豊かな心を育むためには、安定した家庭、生活習慣の形成、教師との信頼関係や友達との関わりが不可欠である。また、幼児は身近な自然や周囲の人々との関わりの中で、感じる、考える、表現することなどを積み重ねながら豊かな心が養われ、創造性が育まれていく。そして、園・家庭・地域で連続した生活を営みながら身近な環境に主体的に関わることで経験を豊かにし成長していく。幼児期に育まれた力を学習の基盤として生かすには、発達と学びの連続性を重視した指導並びに小学校との連携が重要である。

そこで、本分科会では、「豊かな心」「創造性」を育むために幼児が、主体的に生活したり活動したりするための指導や発達の連続性を重視した指導はどうあるべきかという視点で協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 幼児が主体的に活動することを促す指導の在り方
- (2) 発達と学びの連続性を重視した指導の在り方

第 15 分科会 （健康教育）

1 研究協議題

児童生徒の心身の健康増進を図る指導の工夫

2 研究協議題設定の理由

近年、児童生徒を取り巻く社会環境や生活環境が著しく変化している中で、児童生徒の生活習慣の乱れが問題視されている。

児童生徒の心身の健康増進を図るには、望ましい生活習慣をしっかりと身に付けさせることが重要であり、そのためには、小学校と中学校が連携した指導を行い、基本的な生活習慣にかかる自らの課題に気付かせ、それを自ら解決していこうとする資質や能力を各学年の発達段階に応じて育成することが必要であると考えます。

そこで、本分科会では、そのような資質や能力をもった児童生徒を育成するための指導の工夫や小学校と中学校の連携に着目した指導の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) 望ましい生活習慣を身に付けさせるための指導の工夫
- (2) 小学校と中学校の連携に着目した指導の在り方

第 16 分科会 （学校事務）

1 研究協議題

心豊かな子供たちを育てるための教育環境づくり

2 研究協議題設定の理由

学校を取り巻く環境の複雑化・困難化により、教職員や専門スタッフ等の役割が多様化する中で、チームとしての学校の在り方が求められている。そのような中で、学校の組織化を図り、学校のマネジメント機能の強化のために、事務職員として学校運営に積極的に参画していく必要がある。

児童生徒が主体的・協働的に学習を進めるためには、教員が専門性を発揮できる環境を整備することも必要であり、そのためにも学校における業務を見直し、事務体制の充実を図ることが、円滑な学校運営につながるものと考えます。

そこで、本分科会では、大会主題である「心豊かに、創造的に生きる子供の育成」を具現化するために、事務職員として目指す教育環境の在り方について協議する。

3 研究協議の視点

- (1) チームとしての学校を実現するための現状と課題
- (2) チームとしての学校における学校事務職員の在り方